

令和5年度千葉氏公開市民講座「千葉氏と浄土信仰」

令和5年6月10日（土） 植野 英夫

1 浄土信仰について

(1) 浄土の種類

- ・阿弥陀如来の西方極楽浄土
- ・薬師如来とうぼうじょうりの東方浄瑠璃浄土
- ・弥勒菩薩とそつの兜率浄土
- ・毘盧遮那仏びるしゃなぶつの蓮華蔵世界
- ・釈迦仏りょうぜんの靈山浄土
- ・観音菩薩ほんだらくの補陀楽浄土
- ・大日如来みつごんじょうどの密厳浄土

(2) 末法思想（末代観）

仏教の時代観。釈尊滅後の千年を正法しょうぼう。この間は、教え、教えを実践する人、悟りを開く人がある。正法の次の千年は像法ぞうぼう。教えと教えを実践する人はいるが、悟りを開く人がいない。像法の次は末法。末法では、教えだけが残っていて、いかに修行しても悟りが得られないという考え方。日本では、永承七年（1052）から末法に入ったと信じられていた。

(3) 浄土教

平安時代中期以降、天台宗の中で高まる阿弥陀仏が住む浄土へ往生する信仰が高まった。源信げんしん（942-1017）が著した『往生要集』おうじょうようしゅう（985年完成）は、地獄・極楽世界の有り様を詳細に叙述し、「厭離穢土欣求浄土おんりえどごんぐじょうど」、「往生之業念仏為本おうじょうしごうねんぶつ」と念仏の重要さを説いた。『往生要集』からは、慶滋保胤よししげのやすたねの『日本往生極楽記』にほんおうじょうごくらくき、大江匡房おおえのまさふさの『続本朝往生伝』ぞくほんちょうおうじょうでん等いくつもの往生伝が生まれ、教えや修行法などの研究と普及が進んだ。

2 浄土宗と鎌倉武士

(1) 法然（1133-1212）

美作国（岡山県）生れ。浄土宗開祖。13歳で比叡山に登り、18歳で比叡山黒谷くろだにの叡空えいくうの弟子となり法然房源空ほうねんぼうげんくうと改名。承安五年（1175）に専修念仏せんじゆねんぶつに開眼。建久九年（1198）に『選択本願念仏集』せんちやくほんがんねんぶつしゅうを著す。建永二年（1207）に流罪（建永の法難）、その後許され、建暦二年（1212）没。没後の嘉禄二年（1227）に法然廟堂の破却、『選択本願念仏集』の版木焼却がなされた嘉禄の法難がある。

(2) 法然帰依の鎌倉武士

【上野国】大胡小四郎隆義おおご たかよし・大胡太郎実秀さねひで、藪田太郎成家そのだ なりいえ

- 【下野国】宇都宮弥三郎よりつな頼綱れんしゅう実信房しおやともなり蓮生しんしゅう（信生房昇蓮）
 【武蔵国】熊谷次郎直実蓮生、津戸三郎為守、甘糟太郎忠綱、桑原左衛門入道
 【下総国】結城朝光上野入道日阿、千葉六郎大夫入道ほうあ法阿
 【相模国】森（毛利）季光入道西阿、渋谷七郎入道道遍、三浦光村、天野四郎教阿
 【信濃国】角張成阿弥陀仏
 【近江国】頓宮内藤五郎兵衛尉盛政法師西仏さいぶつ

3 法然の門弟となった千葉氏

- (1) 相馬師常 史料1 『吾妻鑑』元久二年（1205）十一月十五日条
- (2) 東胤頼 史料2 『法然上人行状絵図』第四十二 四十八巻・勅集御伝とも。日本最大の絵巻。徳治二年（1307）編纂開始、元応二年（1320）もしくは正中元年（1324）迄に完成。
- 史料3 『法然上人行状絵図』第四十三
- (3) 帰依の理由
- 津戸為守 史料4 『法然上人行状絵図』第二十八
- 熊谷直実 史料5 『法然上人行状絵図』第二十七
- 甘糟忠綱 史料6 『法然上人行状絵図』第二十六
- 武士は、武家の生業としての殺生の罪障感、無智であること、先祖から受け継いできた名誉・家産の継承などと、後生善処極楽往生への願いとの間で悩んでいた。

4 作善への結縁

- (1) 當麻曼茶羅厨子修理 史料7
- 奈良時代末から平安時代初期に製作された綴織つづれおり當麻曼茶羅（国宝）を安置する大型の厨子で、仁治三年（1242）に修理された。厨子扉には修理事業に結縁した公家、武家、僧侶 2150 余人の名が記されていて、中に「左衛門尉平胤景」の名が見える。
- (2) 源智発願阿弥陀如来造像（浄土宗（旧玉桂寺）所蔵） 史料8
- もと滋賀県甲賀市の玉桂寺（現真言宗）に安置されていた阿弥陀如来立像で、法然の弟子勢観房源智せいかんぼうげんち（1183-1238）が建暦二年（1212）の法然一周忌に造像を発願したもの。像修理時に、像内から、像内発願の源智自筆願文、約4万6千人もの交名きょうみょうが発見された。交名の中には、以下の千葉氏 11 人の名が見える。

No.	銘	比定人物	備考
1	平胤政	千葉胤正（千葉新介、常胤嫡子）	峰岸純夫 1995
2	得阿弥陀仏	千葉胤常（相馬、常胤庶子）	峰岸純夫 1995
3	寛秀	観秀（栗原禅師、胤正庶子）	峰岸純夫 1995
4	平常秀	千葉常秀（上総介、胤正庶子）	峰岸純夫 1995
5	平成胤	千葉成胤（千葉介、胤正嫡子）	峰岸純夫 1995

6	平胤忠	千葉胤忠（五郎、辺田、胤正庶子）	峰岸純夫 1995
7	平胤重	千葉胤重（矢木次郎、胤常の孫）	峰岸純夫 1995
8	平胤義	千葉胤義（四郎太郎、胤正の孫）	峰岸純夫 1995
9	平胤秀	大須賀胤秀（常胤の孫）	峰岸純夫 1995
10	師常	相馬師常（常胤の子）	野口 実 1996
11	平行常	相馬行常（師常の子）	野口 実 1996

寛秀（観秀）を千葉胤正の庶子と比定したのは、峰岸純夫氏（1995）と野口実氏（1996）。野口氏は、「栗原」は、栗原郷で、現在の船橋市内と比定されている。

「栗原郷」は、浄土宗・浄土真宗の複数の近世史料において、法然の弟子で、嘉禄の法難で沓岐に流罪となった一念義を主唱した成覚房幸西（1163-1247）が布教を行った地であると紹介される。これら近世史料の根拠を探ると、千葉氏胤の子で、後に増上寺の開山となった浄土宗中興の学僧西誉聖聰（1366-1440）撰『五重拾遺鈔』が初出と考えられる。 史料 16

5 然阿良忠の房総伝道

(1) 然阿良忠（1199-1287）

石見国（島根県）生れ。浄土宗鎮西義第三祖。記主禪師。38歳で鎮西義の聖光房弁長の弟子となる。東国各地の教化につとめ、房総では10年以上伝道を行った。鎌倉では幕府の評定衆・引付頭人を務めた大仏朝直（1206-1264）の帰依を受け悟真寺（後の光明寺）を創建した。

(2) 千葉県内の良忠開山寺院

No.	寺号	創建年	所在地	檀越等
1	光明寺	延応元年（1239）	匝瑳北条荘鐮木郷 旭市鐮木	鐮木九郎入道胤定
2	西福寺	不明	匝瑳南条荘福岡郷 匝瑳市八日市場イ	椎名八郎入道カ
3	光泉寺	正嘉二年（1258）	匝瑳南条荘東方 横芝光町木戸	椎名小次郎胤広
4	光明寺	不明	大須賀保飯岡郷 成田市飯岡	不明
5	（不明）	不明	印東荘石橋郷 酒々井町上・下岩橋	不明
6	浄福寺	建長二年（1250）	木内荘 香取市下小堀（移転）	栗飯原胤秀 （木内胤朝カ）
7	西音寺	康元元年（1256）	東荘 香取市下飯田	千葉頼胤・荒見胤村
8	浄国寺	建長七年（1255）	三崎荘 銚子市春日町	不明
	称讚寺	不明	銚子市正明寺町	海上氏
9	極楽寺	正嘉元年（1257）	武射郡 山武市蓮沼イ	石橋丹後守光宗
10	金照寺	文永二年（1205）	山辺荘カ 山武市松尾町金尾	成東刑部大夫胤教・清 浄院法阿比丘尼
11	長楽寺	康元二年（1257）	一宮荘 大多喜町紺屋（移転）	不明

	常楽寺	不明	伊南荘関郷 (長生・夷隅郡)	不明
12	心巖寺	文永二年 (1265)	長狭郡柴原子郷 鴨川市貝渚 (移転)	不明
13	涼風庵	不明	不明 市原市松ヶ島	不明
14	三経寺	正嘉二年 (1258)	周東郡市宿 君津市市宿	浄覚房在阿

(2) 良忠と千葉氏

良忠は、弁長から法を受けたのち、暦仁元年 (1238) から約十年、生国の石見国にとどまっている。その後、宝治二年 (1248) に上洛、翌年に善光寺を経由して房総に入る。石見国から東国に来る契機については、近年の研究 (西田友広 2007・小此木輝之 2018) で、当時石見国守護であった相馬師常の孫胤綱から一族の追善依頼があった可能性が指摘されている。

①千葉氏の願いと良忠の教え

ア 良忠撰『浄土大意鈔』(建長二年・1250 成立) 史料9

臨終時の善知識の必要性、念死念仏の重要性を説いている。

浄福寺で著された、栗飯原胤秀又は木内胤定に説いた、といわれる。

正元元年 (1259) 八月二十四日銘の下総型板碑にある「主君道阿弥陀仏」が木内胤朝の (道阿了称) 十周忌の追善で造立されたと考えられている。

イ 良忠撰『浄土宗行者用意問答』(正嘉二年・1258 成立) 史料10

荒見弥四郎のために撰述した書といわれる。

罪業が深い、殺生を止められない者の往生に関する問いに答えている。

イ 良忠撰『選択伝弘決疑鈔』(建長六年・1254 成立) 史料11

良忠の晩年の弟子持阿良心 (1262-1323) 著『選択決疑鈔第一見聞』に「賓客とは、今の鈔の能請の人也、是は下総の国鐮木の九郎にして千葉の一族也」とある。鐮木胤定と比定され、胤定は『選択集』を詳しく学んでいたことがわかる。

ウ 良忠撰『決答授手印疑問鈔』(康元二年・1257 成立) 史料12

後に浄土宗で確立する伝法、五重相伝の第四重で授けられる伝書となる。

上総の在阿を鐮木胤定と比定する考えもある。在阿は、良忠の師弁長が撰述した『念仏名義集』の読解し、法然門弟に念仏の不審点等を訪ね歩いてきたが、まだ疑問が晴れないことを述べている。

エ 良心撰『授手印決答受決鈔』(正応六年・1293 成立) 史料13

良心の孫弟子持阿良心 (1262-1323) が師性心 (?-1292? 藤田派派祖) が口述した良忠の教えを記録する。特に良忠の房総伝道における在阿武士との土地問題

に関するやりとりや、鎌倉入り当初の状況を記録する唯一の史料。

オ 聖しょうげい問もん撰せん『浄じょうど土じゆつもん述んく聞けつ口しょう決しょう鈔』(康安元年・1361 成立) 史料14 史料18

良忠の子良りょうぎょう 暁しらはた (1251-1328 白幡派派祖) が、正和二年 (1313) に下総国海上船木の中務禅門の要請により称名寺に3年滞在した間に講述した。良忠の弟子は白幡・藤田・名越等と分流するが、良暁を批判するために尊そんかん観かん (名越派派祖) が著した『浄じょうど土じゆろ十六ろっか箇じょうぎ条もんどう疑もんどう問もんどう答』を論破したのが良暁撰『浄じょうど土じゆつもん述もんしょう聞しょう鈔』である。本書は聖問 (1341-1420 浄土宗七祖) が著した『浄土述聞鈔』の注釈書である。

尊観は、名越派では延応元年 (1239) 下総国香取郡鏑木生れと伝えている。

カ 聖問撰『伝でんづうき通にゅうしょう記しょう糺しょう鈔』(応永二年・1385 成立) 史料15

聖問 (1341-1420) 諸学兼修の上、教学を深め、当時寓宗と批判されていた浄土宗を宗派として確立させた中興の祖。本書は浄土宗七祖で良忠の『観かんぎょう経きやう疏そでんづうき伝づうき通き記』の注釈書。良忠の房総での講述に関する情報を載せる。

②良忠と千葉氏との不和

ア 良心撰『授手印決答受決鈔』(正応六年・1293 成立) 史料13

史料編7頁▽箇所から (意訳 大橋俊雄 1984)

椎名：私は微禄の身ですが、お上人を養ってあげることのできるの、誠に光栄なことです。

上人：いや、私は入道殿から扶養されたとは、身におぼえがありません。

椎名：とんでもないことです。お堂一字と水田一町を差し上げたではありませんか。それでも扶養されたことがないとおっしゃるのですか。

上人：この家にしても田畑にしても、すべてお金を出して買い求めたものです。決してそなたから貰ったものではありません。

椎名：そのようなことはないでしょう。私から買ったというならば、何年何月にお金を下されましたか。

上人：その時々用途にしたがって、何貫文・何百文ほしいと言われるままに差し上げたのは、家や田畑の代金ではなかったのですか。貸したのなら返してもらうのが当然ですが、返してくれてはいないはずですよ。

椎名：私は病気がちで痩せている身ですが、たびたび鎌倉に上下しています。それを哀れんでお使い下さいと、用立てて下されたのではありませんか。こうしていただいたお金を、家や田畑の代金だったとは考えていません。

上人：私は沙門であり、貧しく縁者はおりません。どうして身命を投げ出してまで、所領を知行している地頭に、お使い下さいとお金を出す必要がありましようか。そなたが借金した本心は家や田畑を売るためだったのではないのですか。今になって売った覚えがないとはもってのほか。

6 西誉聖聰～千葉氏からの浄土宗高僧 史料17

大蓮社西誉とも。聖聰（1366-1440）は千葉氏胤の子で満胤と兄弟。幼名徳寿丸、加冠して胤明。9歳で出家し、最初は明見寺（妙見寺）で就学し、横曾根談義所（後の弘経寺）で聖罔に帰依し、応永十一年（1404）に聖罔から五重相伝を受ける。大部の著作を残し、浄土宗教義の確立と布教に尽力した。浄土宗八祖、武蔵国の増上寺開山。

千葉満胤の次男で後に聖聰の弟子となる西仰（1418-1459）は増上寺二世となる。

聖聰は、『厭穢欣浄鈔』（応永二十八年 1421 成立）と『名号万徳鈔』（同年成立）の二書に、「性阿禅門」「性阿弥陀仏」からの依頼によって撰述したと執筆動機を書いている。上野麻美氏（2022）は、「性阿禅門」「性阿弥陀仏」について、千葉満胤の家人「中村弥六入道性阿」と比定している。中村性阿（中村胤幹）は、香取神宮の応安の争論において、香取神宮社領を押領する地頭として史料に登場する武士である。

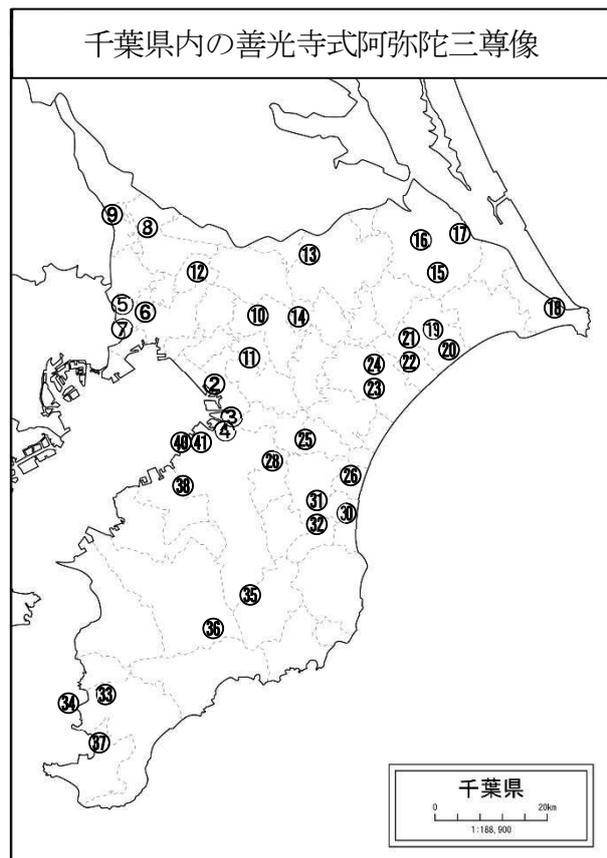
7 浄土信仰の文化遺産

(1) 善光寺信仰 史料19 史料17

善光寺は長野県長野市にあり、現在、天台宗と浄土宗が協同で管理している宗教法人。本尊は、百済の聖明王から献上されたと伝える、一枚の光背前に、阿弥陀如来（中尊）、観音菩薩（向かって右）、勢至菩薩（向かって左）が並ぶ、いわゆる一光三尊像である。絶対秘仏。阿弥陀信仰の高まりで、善光寺本尊は「生身の如来」・靈験仏として、中世には多くの銅造の模刻像が造られた。

鎌倉幕府を開いた源頼朝が善光寺復興を支援し、また建久八年（1197）に自ら善光寺参詣したことで武家の間でも信仰が広がり、多くの善光寺式阿弥陀三尊像が伝わる。頼朝の善光寺参詣に、千葉氏からは相馬師常・千葉胤正・千葉常秀が随兵している。

良忠は、房総に来る前に信州の善光寺に参詣・逗留し、48日間講述を行ったと、良忠の弟子道光撰『然阿上人伝』（弘安十年・1287 成立）に記録される。福島県いわき



市・如来寺に伝わった善光寺式阿弥陀三尊像は、良忠が信仰していた像を弟子真戒が弘安十年（1287）に授かったものと伝える。

近くの薬王寺は、鎌倉時代に金沢文庫の僧との交流があり、永仁三年（1295）に付法を受けた真源は、後に成田市・大慈恩寺の開山となっている。また、匠瑳市・見徳寺の鏡照から密教の付法を受けた鏡祐が、薬王寺を文安三年（1446）に中興している。

浄土宗・浄土真宗・時宗各宗派は善光寺信仰を取り込んでいるが、宗派を超えた信仰として広がった。

(2) 仏画と法会

① 十王図

冥界で死者の罪業を裁く十人の王を描いた絵画。死者は、初七日に秦広王、二七日に初江王、三七日に宋帝王、四七日に伍官王、五七日に閻羅（閻魔）王、六七日に變成王、七七日に太山（太山府君）王、百箇日に平等王、一周年に都市王、三周年に五道転輪王によって裁きを受ける。没後の死者の往生を願う追善供養で懸用され、鎌倉時代以降に各地で制作された。

現在、匠瑳市・西光寺（真言宗）が所蔵する十王図は、もとは近傍の廢寺善導寺所蔵だったと伝える。善導寺は、当初は浄土宗で、15世紀前半には密教化した寺である。

② 行道面

阿弥陀如来が二十五菩薩とともに来迎し衆生を浄土に導く様子を演劇化した迎講（練供養）という法会で用いられる仮面。観音菩薩面が多い。

千葉県内に残る行道面は以下のとおり。

No.	寺号	所在地	由緒	内訳	時代
1	迎接寺	成田市	弘法大師開山、源信法会草創	鬼5、幽霊亡者等8	江戸
2	浄福寺	香取市	良忠開山	菩薩面11を含み30	江戸
3	光明寺	旭市鑄木	良忠開山	菩薩1	
4	広濟寺	横芝光町	後鳥羽院の時、僧石屋が草創	鬼婆(奪衣婆)2、鬼4、塩ふり(舞台浄め)4、俱生神、閻魔大王、観音菩薩	鬼婆・黒鬼・赤鬼は室町、他は江戸
5	心巖寺	鴨川市	良忠開山	菩薩21、比丘尼2	室町～江戸
6	建曆寺	君津市	行基開山	菩薩面4	鎌倉

迎講は源信が考案したとされ、平安時代には畿内寺院で、鎌倉時代以降は山陽・中部・関東各地で開催された。現在、迎講が伝承されている、又はかつての伝承されていた寺院は浄土宗若しくは阿弥陀・地藏等の救済・往生信仰が著名な寺院である。君津市・建曆寺は現在真言宗であるが、源信作と伝える千体仏を伝えている。

【テキスト・図版引用文献】

- ・浄土宗開宗八百年記念慶讃準備局 1970～72 『浄土宗全書』山喜房仏書林 覆刻版
- ・浄土宗開宗八百年記念慶讃準備局 1972～79 『続 浄土宗全書』山喜房仏書林 覆刻版
- ・岡田英男・井上正・河田貞「当麻曼荼羅厨子 解説」1978 『大和古寺大観 当麻寺』岩波書店
- ・大橋俊雄 1984 『三祖良忠上人』神奈川県教区教務所
- ・鎌倉国宝館 1986 『特別展 光明寺と良忠上人』同館
- ・小松茂美 1990 『続日本の絵巻 法然上人絵伝 上・中・下』中央公論社
- ・野口実 1996 「中世前期の船橋—領主・荘郷・港津・寺院—」千葉歴史学会『中世東国の地域権力と社会』岩田書院
- ・千葉県立大根博物館 1996 『特別展 「地獄・極楽」展示図録』同館
- ・千葉県教育庁教育振興部文化財課 2004 『ふさの国文化財総覧』1～3巻 千葉県教育委員会
- ・水野敬三郎編集代表 2004 『日本彫刻史基礎資料集成 鎌倉時代 造像銘記篇二 解説』中央公論美術出版
- ・長野信濃美術館 2009 『善光寺御開帳記念 “いのり”のかたち 善光寺信仰展』同館
- ・京都国立博物館 2011 『法然上人八百回忌特別展覧会 法然—生涯と美術—』同館
- ・鈴木英之 2012 『中世学僧と神道 - 了譽聖罔の学問と思想』勉誠出版
- ・龍谷ミュージアム 2013 『極楽へのいざない—練り供養をめぐる美術—』同館
- ・宇高良哲 2015 『近世浄土宗教団の足跡』浄土宗
- ・栃木県立博物館 2017 『開館三十五周年記念特別展 中世宇都宮氏—頼朝・尊氏・秀吉を支えた名族—』同館
- ・奈良国立博物館 2022 『貞享本當麻曼荼羅修理完成記念特別展 中将姫と當麻曼荼羅』同館

【参考文献】

- ・大谷旭雄 1989 『聖聰上人典籍研究』大本山増上寺
- ・植野英夫 1993 「良忠の房総伝道について - 開山伝承を中心に -」『鎌倉』70・71 合併号
- ・峰岸純夫 1995 「中世東国の浄土信仰—百万遍念仏・善光寺阿弥陀三尊仏信仰などをてがかりに—」地方史研究協議会編『宗教・民衆・伝統—社会の歴史的構造と変容—』雄山閣出版、後に同『中世東国の荘園公領と宗教』（吉川弘文館 2006 年）に収載
- ・佐藤孝徳 1995 『専称寺』私家版
- ・岡部光伸 1997 『願行流の研究』齋々坊
- ・関口正之 1997 「千葉県西光寺蔵 十王図」『國華』1414 号
- ・浅見龍介 1999 「資料紹介 善光寺式阿弥陀如来像二例—東京国立博物館保管中尊像と福島・いわき市所蔵三尊像—」『MUSEUM』558 号
- ・生方徹夫 2000 『鬼來迎—日本唯一の地獄芝居』麗澤大学出版会
- ・小林尚英 2000 「良忠上人時代の日常勤行とその時代の下総板碑にみられる偈文について」『仏教文化研究』44 号
- ・西田友広 2007 「鎌倉時代の石見国守護について」『鎌倉遺文研究』20 号
- ・伊藤茂樹 2009 『浄土述聞鈔』の成立背景—良暁の念仏観—『仏教大学総合研究所紀要』16 号
- ・古幡昇子 2009 「善光寺式阿弥陀および脇侍像現存作例—覧概要—」『仏教芸術』307 号
- ・高橋慎一郎 2010 「鎌倉時代の東国武士と善光寺信仰」笹本正治・土本俊和編『善光寺の中世』高志書院
- ・西田友広 2010 「石見守護補考 - 相馬胤綱の位置づけについて」『鎌倉遺文研究』26 号
- ・中井真孝 2011 「法然上人絵伝の成立」『佛教論叢』55 号
- ・中井真孝 2012 『新訂 法然上人絵伝』思文閣出版
- ・杉崎貴英 2014 「浄土宗（玉桂寺旧蔵）阿弥陀如来とその像内納入品の研究のために—関連書誌および結縁交名比定・論及—」『京都造形芸術大学紀要 GENESIS』18 号
- ・北畠浄光 2016 「法然没後の専修念仏—良忠の東国教化を中心に—」『仏教史研究』54 号
- ・吉川瑞之 2016 『看病用心鈔』の研究—良忠の他の著作との比較を中心に—『浄土学』53 号
- ・千葉県立中央博物館 2016 『君津市市宿「星野家日記」』同館
- ・平雅行 2017 『鎌倉仏教と専修念仏』法蔵館
- ・小此木輝之 2018 「法然浄土教と関東武士」『浄土学』55 号
- ・神奈川県立金沢文庫 2019 『特別展六百年遠忌記念 浄土宗七祖聖罔と関東浄土宗 - 常福寺の名宝を中心に -』同館
- ・上野麻美 2022 『室町期浄土僧聖聰の談義と説話』新典社